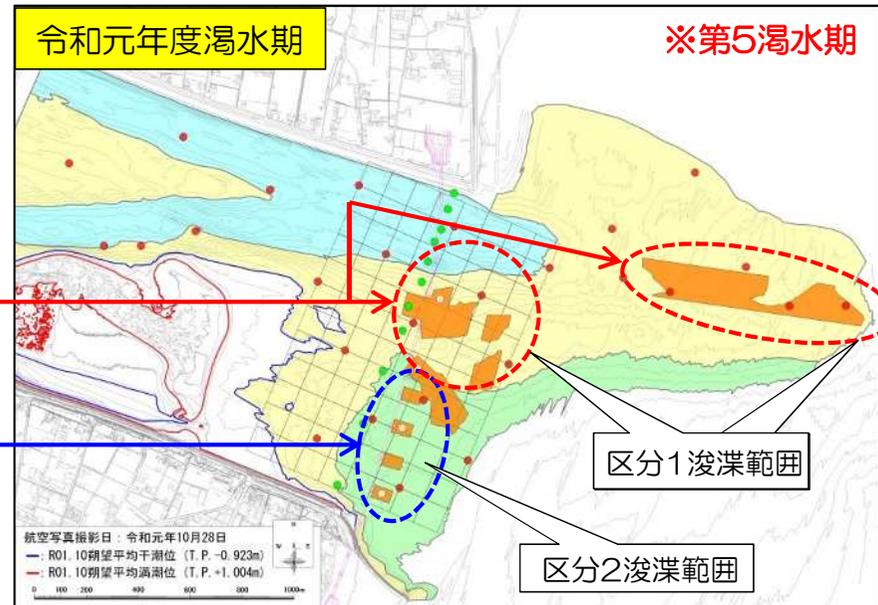
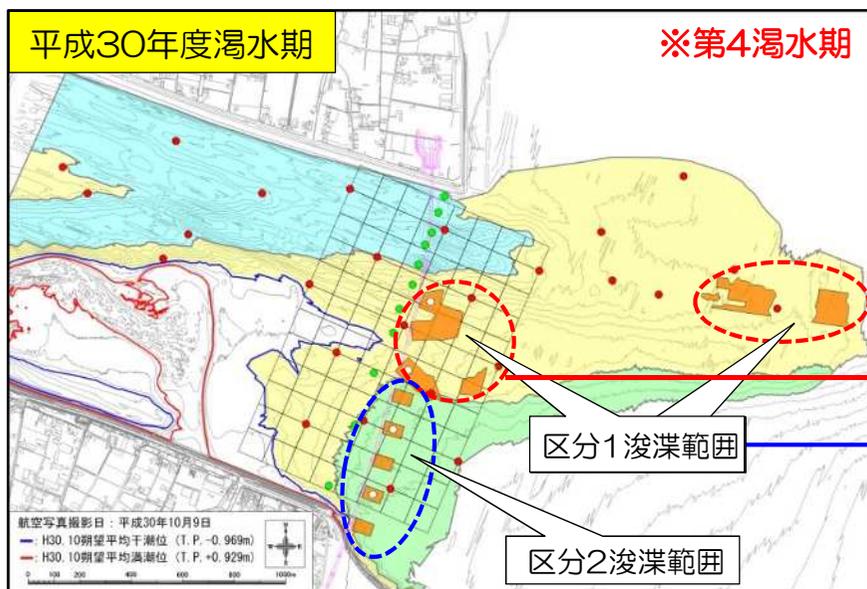


■ 浚渫の影響評価 ～区分1と区分2における影響値の減少について～



令和元年度濁水期は、平成30年度濁水期に比べて区分1、区分2ともに浚渫面積が増加したため、両区分とも影響値が増加した。**※過去最大の影響値となった。**



区分	ハビタット面積 (m ²)	平成30年度濁水期	
		浚渫面積 (m ²)	割合 (%)
区分1	1,668,139	79,658	4.8
区分2	457,374	20,710	4.5
区分3	773,736	0	0.0

区分	ハビタット面積 (m ²)	平成30年度濁水期	
		浚渫面積 (m ²)	割合 (%)
区分1	1,837,290	153,799	8.4
区分2	453,372	39,173	8.6
区分3	695,368	0	0.0

区分1、区分2ともに前年度濁水期に比べて浚渫面積が増加し、それに伴い影響値も両区分とも増加